

平成 25 年 7 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	29.7	106.2 kPa abs	A系： 0.14 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.11 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	41.8	8.71 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	40.1	0.23 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.11 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.5
2号機	循環冷却システム	運転中	25.7
3号機	循環冷却システム	運転中	24.4
4号機	循環冷却システム	運転中	30

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

7/17 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、2次系のフラッシング作業を実施(当該作業期間において使用済燃料プール代替冷却系の冷却停止はなし)。なお、使用済燃料プール代替冷却系の運転状態、プール水温度に異常はなし。

上記について、2次系フラッシング作業期間を当初予定の「7/17～7/19」と記載するとともに、「同作業の状況に応じて冷却停止を予定」と記載しておりましたが、同作業については 7/17 のみで終了するとともに、同代替冷却を停止することなく終了しております。お詫びして訂正させていただきます。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	7/15 11:20～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	7/17 10:07～ 移送実施中

7/16 13:00～ 5,6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5,6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロント水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5,6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。なお、本移送は8月下旬までの日中時間帯を行う予定。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/18 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備 (ALPS) の3系統 (A ~ C) のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始。なお、6/15 に発生したバッチ処理タンクからの水漏れの対応のため、ホット試験を中断中。
- ・H25/6/13 9:49 ~ 多核種除去設備 (ALPS) の3系統 (A ~ C) のうちB系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/7/8 ~ 11 2号機TIP (移動式炉内計装系) 案内管A ~ Dラインの健全性確認を実施。TIP案内管の健全性確認のために、ダミーTIPケーブルを用いて索引装置のリミットスイッチローラの押し上げおよび固着物の解消を試みたが、障害物等を解消することができなかった。7/19、Dラインにおいて、ダミーTIPケーブルの挿入トルクを増加させて、再度、同ローラの押し上げと固着物の解消を試みる。
- ・H25/7/9 10:25 ~ 1号機サプレッションチェンバ内残留水素の排出、およびサプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、サプレッションチェンバ内への窒素ガス封入を再開。
- ・H25/7/12 ~ 16 3号機原子炉建屋1階において、がれきなど障害物の撤去作業の事前調査として、バックボットによる建屋内の調査を実施。
- ・H25/7/18 8:20 頃 瓦礫撤去作業前のカメラによる現場確認において、3号機原子炉建屋5階中央部近傍 (機器貯蔵プール側) より、湯気らしきものが漂っていることを協力企業作業員が確認。なお、主要プラント関連パラメータ (原子炉格納容器・圧力容器の温度および圧力、キセノン濃度)、モニタリングポストおよび連続ダストモニタの値に有意な変動はなし。その後、同日9:20 に未臨界維持を確認。また、3号機原子炉建屋使用済燃料プール養生上部の雰囲気線量の測定結果については、日々作業前に実施している線量測定値と比較して大きな変動はない。今後、3号機原子炉建屋上部の雰囲気線量測定および当該部近傍のダスト採取を行う。

【タービン建屋東側の地下水調査状況について】

- ・1 ~ 4号機タービン建屋東側に観測孔を設置し採取した地下水を分析したところ、1,2号機間の観測孔 No.1 において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値で検出。今後も引き続き採取分析を行い、監視強化を実施。
トリチウム: $4.6 \times 10^5 \sim 5.0 \times 10^5$ Bq/L (採取日: 5/24, 5/31, 6/7)
ストロンチウム $90: 1 \times 10^3$ Bq/L (採取日: 5/24)
- ・7/19 取水電源ケーブルトレンチ (海水配管基礎部) において、トレンチ上部に穴を開ける予定。
(線量測定の状態によっては、可能であれば内部の目視点検、水位測定も行う。)

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 拡散防止対策 >

7/17 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

地下貯水槽 No.1 のドレン孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。

6/19～ 地下貯水槽 No.1 検知孔水(北東側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.1 に淡水化装置(RO)処理水(全ベータ放射能濃度:約 1×10^1 Bq/cm³)またはろ過水を移送し希釈する処置を実施(地下貯水槽 No.1 内残水の全ベータ放射能濃度: 6.6×10^4 Bq/cm³)。

最新の希釈作業実績: 7/5 約 40m³のろ過水を注水。

6/27～ 地下貯水槽 No.2 検知孔水(北東側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.2 に淡水化装置(RO)処理水(全ベータ放射能濃度:約 1×10^1 Bq/cm³)またはろ過水を移送し希釈する処置を実施。

最新の希釈作業実績: 7/17 約 40m³の淡水化装置(RO)処理水を注水。

< サンプルング実績 >

・7/17 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1～4, 6の漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)についてサンプルングを実施。分析結果については、地下貯水槽 No.2の漏えい検知孔水(北東側)の塩素濃度および全ベータの値が、前回(7/16)実施したサンプルングの分析結果と比較して低下傾向にあるが、現在行っている希釈の効果によるものと推定。その他の分析結果については、前回と比較して大きな変動はない。また、7/10に採取した地下貯水槽 No. 1～4, 6のドレン孔水及び漏えい検知孔水についてトリチウムの分析を実施。分析結果については、前回(7/3採取)の値と比較して大きな変動はなし。

< その他 >

・7/13 地下貯水槽 No2においては、全ベータが検出された観測孔 No2-10・11・12 の外側に 2-14・15・16 を追加ボーリングして汚染範囲確認を行っていたが、汚染が限定的であることを確認できたことから、特定した汚染範囲内の土壌を除去し、充填材による埋め戻し工事を開始。

・7/17 8:30～9:00, 11:10～11:50 海側遮水壁工事に使用する資機材を搬入するため、1～4号機取水口付近に設置したシルトフェンスを開放。

以上